vinetur

米国のワイン生産量、カリフォルニアの生育期不振で2026年に5％減

OIVは米国のワイン生産量を1,900万ヘクトリットルと推計。3年連続で低調となるなか、世界第4位を維持した

2026年11月19日（木）



国際ブドウ・ワイン機構（OIV）が11月18日（水）、フランスのディジョンで公表した初回推計によると、米国は2026年も世界第4位のワイン生産国となる見通しだ。ただし、カリフォルニアで生育期が再び厳しい年となり、生産量はさらに減少した。

OIVによると、2026年の世界のワイン生産量は2025年と同程度にとどまったものの、気候の影響や市場環境を背景に、5年平均を下回った。初回推計からは、主要生産国が天候の乱れや不均一な成熟、収穫判断の変化への対応を迫られた年となったことがうかがえる。

米国のワイン生産量は1,900万ヘクトリットルと推計され、2025年比で5％減、5年平均を18％下回った。確定すれば、米国では3年連続で生産量の少ない年となる。

OIVによると、米国の減産は主に、国内最大のワイン産地であるカリフォルニアの状況に起因する。早春の温暖な気候でブドウの生育が例年より早まった一方、その後の雨や強風が開花と結実を妨げた。同機構は、こうした季節的な影響に加え、ブドウの購入や収穫をめぐる調整も最終的な生産量を押し下げたとしている。

この推計は、米国が世界の主要生産国としての地位を保つ一方で、ワイン産業が気候と商業の両面で圧力に直面し続けていることを示している。OIVはディジョンで公表した推計で、米国内の地域別の詳しい内訳は示さなかったが、カリフォルニアの状況が国内全体の結果を大きく左右する。

米国以外の北半球の生産国では、欧州連合（EU）域外の国々で結果にばらつきが見られた。ロシアのワイン生産量は540万ヘクトリットルと推計され、2025年比で6％減となったが、5年平均は10％上回った。OIVによると、ロシア各地のワイン産地で生育条件に差があった一方、国内のブドウ収穫量はおおむね前年並みとなる見通しだ。

ジョージアの生産量は250万ヘクトリットルと推計され、2025年に記録した高水準に近く、5年平均を17％上回った。OIVによると、近年の水準と比べて生産量は引き続き高かったものの、天候の影響で主要産地の一部では成熟が遅れた。

このグループで比較的好調だった国の一つがモルドバだ。ワイン生産量は190万ヘクトリットルと推計され、2025年比で9％増、5年平均を29％上回った。OIVによると、この数字が確定すれば、モルドバでは過去20年間で2番目に多い生産量となる。これを上回るのは、2013年に記録した260万ヘクトリットルのみだ。

スイスの生産量は80万ヘクトリットルと推計され、2025年および5年平均とほぼ同水準だった。OIVによると、夏の暑さと水不足で成熟が早まり、主要産地のいくつかで収穫が前倒しされた。

中国の2026年のワイン用ブドウの収穫データは、まだ入手できていないという。更新された数値は2027年上半期に公表される見通しだ。